

釧路川水系河川整備計画〔変更〕（原案）に対して寄せられたご意見

※頂いたご意見は事務局にてテキスト化し、受付順に掲載しています。

※個人や特定の企業・団体名が記載されている部分は黒塗りとしています。

<意見①>お住まい：釧路市

釧路市交流プラザさいわいで原案の説明を聞かせていただきました。

お陰様で河川整備計画〔変更〕（原案）の内容は良く解りました。

釧路の産業は農業・畜産・林業・水産・石炭・観光でその全てが釧路川と深い係りがあると思います。

特に釧路川は観光資源としての役割も無視できないと思っています。

流域の農地や山林や市街地や道路を水害から守るのは当然のことですが、同じように川で釣りをゆったりカヌーで川下りしたり多くの方が色々な目的で川を利用しているはずで、すべての人に役立つ河川計画になるように期待しています。

<意見②>お住まい：標茶町

私は、●●に生まれ、学生時代実家を離れた以外は、ずっと標茶町の●●地区に居住しております。私が生まれてから1度も家が洪水で水に浸かるようなことはなく、普段からの災害対策に感謝しております。

近年は、温暖化・異常気象と言われ、洪水が懸念されております。特に南標茶地区は、堤防の越水よりも、オソベツ川との合流地点の水門を閉じると、堤内の水位が上がり、住宅・酪農施設の浸水が心配されます。

河川の整備計画では、まずは第一に住民の安心安全の確保が大切と考えます。それを踏まえ、自然環境に配慮した整備計画と考えます。

阿寒摩周、釧路湿原と二つの国立公園を流域とする釧路川は、自然豊かな地域を流れており、自然に配慮した整備をお願いいたします。

近年はタンチョウも生息数を増やしており、今までは営巣したことがない人家に近い河積などで営巣しており、工事の時期等に配慮願いたいと思います。

また、フクジュソウ、エゾエンゴサク、オオバナノエンレイソウなどの在来種も群生しております。クサソテツの群生地での山菜取りは、春の流域住民の楽しみになっております。

近年、外来種のセイタカアワダチソウ・オオハンゴウソウの繁茂が確認されてきており、十勝のように河川敷地が真っ黄色になるのではと心配しています。

魚類では、昔はドジョウ・カジカが多く生息していましたが、近年はすっかり姿を見せな

くなりました。イトウは、天然記念物には指定されていませんが、釧路湿原を代表する魚であり、釧路川・屈斜路湖（近年、放流されたものと思いますが、産卵のため小河川への遡上を確認されます）で指定されるとともに、猿払川・朱鞠内湖のようにキャッチ&リリースが定着してもらいたいものです。

以上とりとめもないことを記載しましたが、第一に住民の安心安全の確保、次に時間とお金もかかりますが、自然環境に配慮した整備を進めていただくと嬉しいです。

<意見③>お住まい：弟子屈町

（釧路川水系河川整備計画〔変更〕（原案）の該当箇所：第2-1-3章75ページ）

弟子屈市街地は長年、町の中心を流れる河川であるため親しみがありません。

町名の由来でもある岩盤の掘削にあたっては、できることなら町民の日の目を見るようなものにしてもらいたいです。歴史、風土に深く関わる町の宝だと思うので。

子供達の学習（地域探究）、町外客には弟子屈の成り立ちを知ってもらえる財産と思います。

<意見④>お住まい：弟子屈町

（釧路川水系河川整備計画〔変更〕（原案）の該当箇所：1-2-2(5)、1-3-1、1-3-6(2)、2-1-3(3)・(4)）

該当箇所は全体を通じてあるかと思いますが、気が付いた部分で該当箇所を示させていただきました。

その上で、弟子屈町は中心市街地に釧路川が流れており、観光や産業、生活に密着しており、中心市街地再構築構想や3つの国立公園とまちを繋ぐロングトレイルについて検討がされており、整備中の親水公園や堤防など護岸整備に反映されたものとなることを期待し、利用しやすい河川周辺みたいに連想される文言がどこかに入ればいいのではないのかと思います。

<例>「1-2-2(5) 河川空間の利用」の中に「弟子屈町市街」を追加する。

<例>「1-3-6(2) 河川空間の利用に関する目標」の中にトレッキングの文言を入れる（水面と水辺り）

些細なことですみませんが、釧路川の水瓶（屈斜路湖）をもつ上流の弟子屈町からの発信です。

<意見⑤>お住まい：弟子屈町

<意見-1>

基本方針や整備計画にも「カヌー利用が盛んである」ことの記載がありますが、実際は「利用」に関しての具体計画がほぼないよう感じます。昨今ではアドベンチャー旅行推進の背景もあり、釧路川の魅力は「屈斜路湖～釧路の海まで下れる川」であることが最大の魅力であると思います。災害対策を行うことが計画内容の優先事項であることは理解できるのですが、「利用と安全啓蒙」や「魅力発信」に関しての具体計画も組んでいただきたいと思ひます。希望する具体内容については以下。

- ・摩周大橋以降 6km 区間、現在航行禁止区間の安全整備（危険物の撤去、もしくはポーテージ箇所の整備）：基本方針にもあるとおり「源流から河口まで堰等がない河川としてカヌー利用が盛んである」その魅力を伝えることができます。
- ・カヌーポート標茶富士駅の整備状況改善：現在はカヌーポートが草で覆われてしまひています。「カヌーポート」として再整備可能ではないでしょうか。「かわたびほっかいどうプロジェクト」の推進に該当することかと思ひます。

護岸整備などは必要最低限に。そして自然に対するインパクトを最小限にするために最大限考慮していただきたいと思ひます。やはり釧路川は川の始まりから海まで下れる川にしていただきたい、そして川を利用した人が川を通じて自然やその土地の歴史に触れることで、人と川の関わりや、自然との共生という考え方が深まていくものかと思ひます。つまり「利用」についての具体計画も積極的にお願ひします。

〈意見－2〉

カヌーガイドを生業としています。理想としての釧路川の状態は川沿いが樹々に覆われ、清らかな水を保っていること。極論は護岸の撤廃や植林の推進を望むが、人間が存在していることも自然の一部であり、自然に反することも人間の本質であることは認識しています、市井の人々とカヌーガイドの、河川や自然に対する見方には相違があることを考慮すると、現実的に求めることは「川の水が清らかであること」「でき得る限り必要最低限の護岸工事」「市街部分のカヌー通行を可能にすること」。以上を意見、要望として提言致します。

〈意見－3〉

カヌーの利用や自然の保全にも触れているので、屈斜路湖から釧路の海までカヌーで下れるすばらしい河川環境にしてほしいです。

〈意見－4〉

今の通行禁止の看板は実際に下ることを禁止するというイメージを与える。通行禁止ではなく、危険箇所をポーテージ（一時上陸）ができるようにして下れるようにしてはどうか。中流域の河川改修によって過去 20 年から比べると水量が落ちてるようになってる。今後の工事については慎重に考え進めたい。

<意見⑥>お住まい：標茶町

標茶市街地の高水敷にある河川緑地は町民の憩いの場となっており、景観もすばらしく、他の地域の方から非常に綺麗に整備されていると好評である。そういったことから、可能な限り工事の影響は最低限にとどめてほしい。

ときわ橋上流で流れが緩やかになり、開運橋付近ではイカダ下りの終着点となっていたが、近年は川の中に土砂が堆積し、中州ができやすくなっていると感じている。環境面にも影響があると思うが、その対応もしていただきたい。

右岸側、左岸側にあるパークゴルフ場や公園等には手を付けず残していただきたい。